

広島県の農林水産業

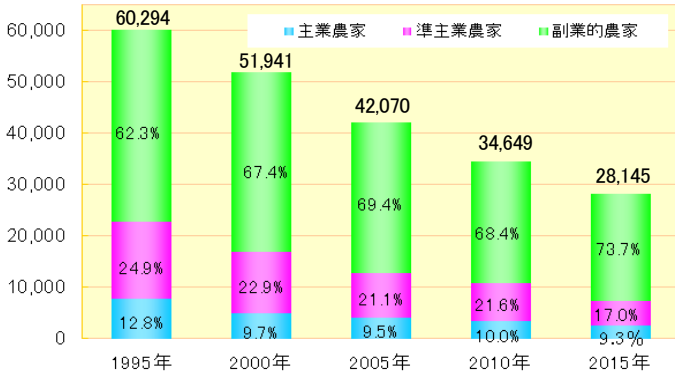


平成 28(2016)年 4 月

農 業

1 農 家

主副業別販売農家数の推移 (単位: 戸)

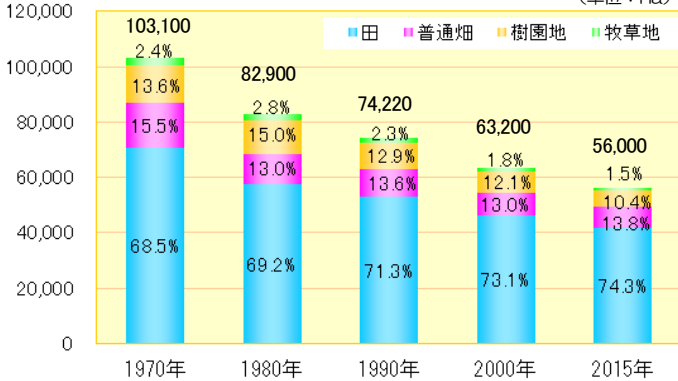


本県の販売農家は、副業的農家が約7割を占めています。

※「1農家」の2015年は農林業センサズ概数値

2 耕地

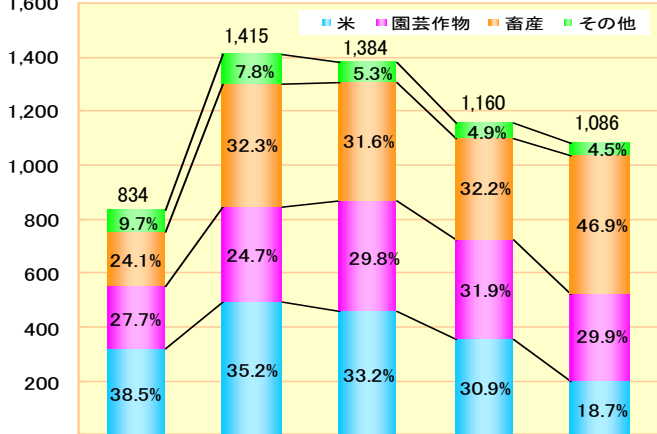
(単位: ha)



本県の耕地は、地形的に急斜面水田が多く、農家1戸当たりの耕地面積は99aと低くなっています。

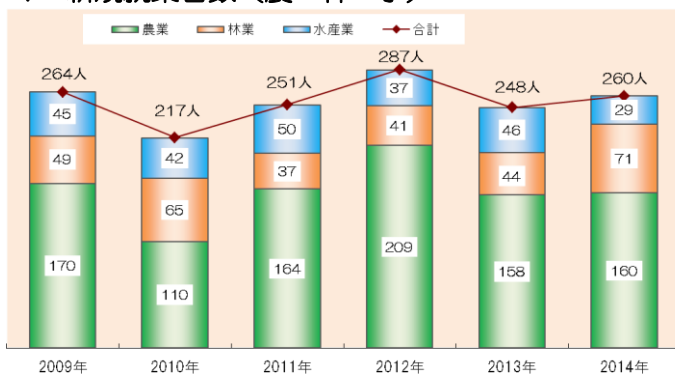
3 農業生産

農業産出額の推移 (単位: 億円)



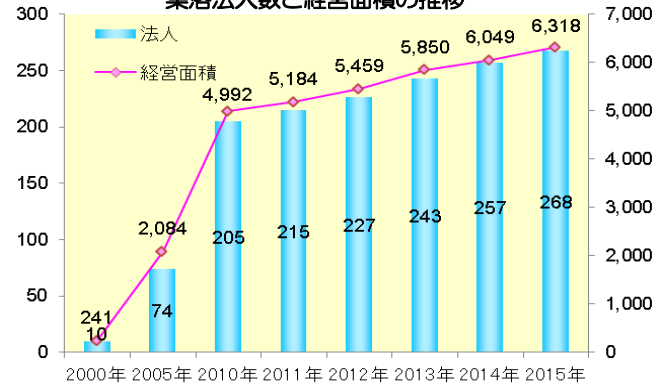
2014年の農業産出額は1,086億円で、そのうち、畜産の占める割合が約5割となっています。

4 新規就業者数(農・林・水)



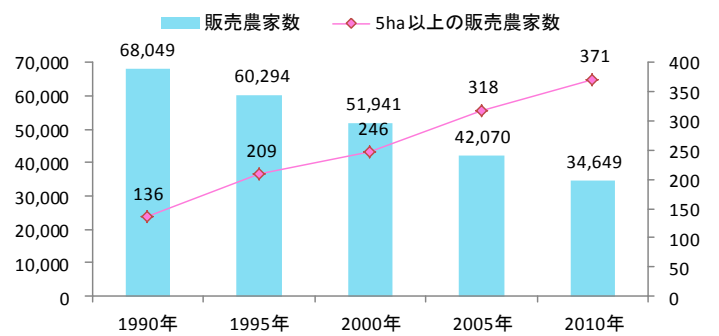
5 取組の成果

集落法人数と経営面積の推移



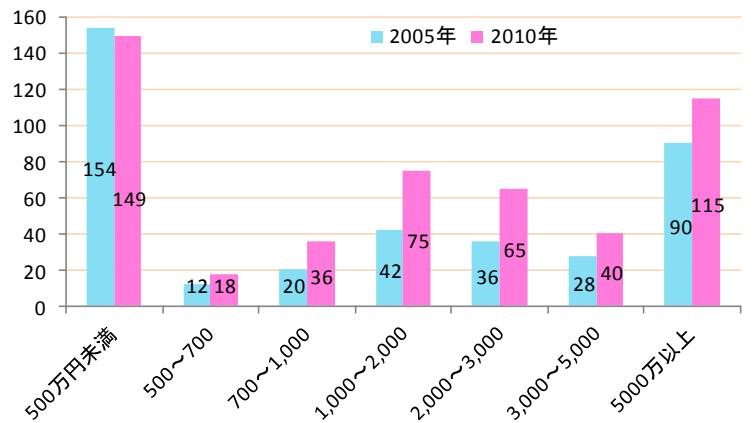
個人経営から、集落内の農地を集積した、法人経営が増加してきており、2016年3月末現在の集落法人設立件数は268法人となっています。

販売農家数と経営耕地面積5ha以上の農家戸数



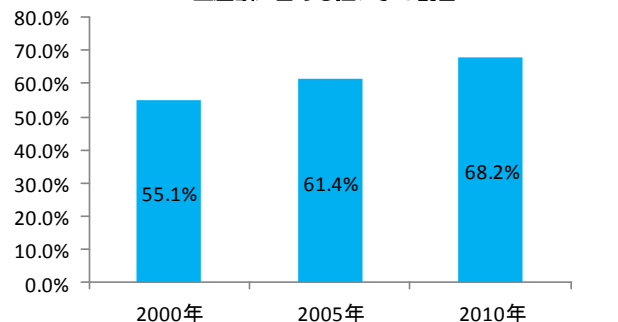
販売農家が減少する中、5ha以上の耕地を経営する割合は増加し、着実に規模の拡大が図られています。

法人化している販売農家の売上高 (単位: 経営体)



販売農家は減少していますが、法人化する販売農家は数、売上高ともに増加しています。

生産額に占める担手の割合



地域の核となる経営力の高い担手が、生産の相当部分を担う構造を目指しています。

農業生産

広島県では、北部高冷地から沿岸島しょ部地域に至る多様な自然条件を生かして、米、野菜、果樹、畜産を基幹とした多様な農業を展開しています。

畜産

産出額 509 億円 (全国 16 位) (2014 年)
 生産量 牛肉 9,007t 豚肉 4,859t
 (2014 年) 鶏肉 12,420t 生乳 57,987t

鶏卵 (2014 年)
 生産量 133,420t **全国 4 位**



広島県における飼養戸数及び飼養頭羽数 (2014 年)

| | 飼養戸数 | 飼養頭(羽)数 | 1 戸平均 |
|-------|------|-----------|---------|
| 乳用牛 | 177 | 9,820 | 55.5 |
| 肉用牛 | 702 | 25,200 | 35.9 |
| 豚 | 32 | 85,900 | 2,684.4 |
| 採卵鶏 | 55 | 8,714,000 | 158,436 |
| ブロイラー | 10 | 605,000 | 60,500 |

※農林水産省「畜産統計」調

《農業産出額の上位 5 品目》 (2014 年)

- 1位 鶏卵 270 億円 (2位)
- 2位 米 203 億円 (1位)
- 3位 豚 74 億円 (6位)
- 4位 肉用牛 66 億円 (3位)
- 5位 生乳 61 億円 (4位)

※ ○ 内は 2013 年の順位

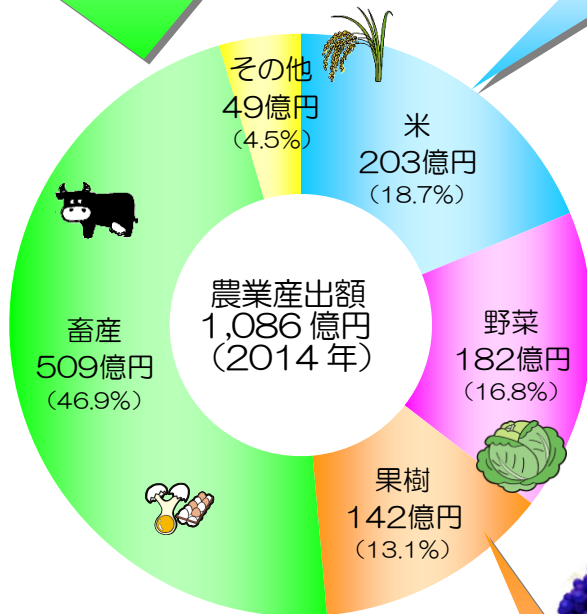


米

産出額 203 億円 (全国 26 位) (2014 年)
 生産量 125,200 t (2015 年)

【生産量が多い品種】: コシヒカリ (2015 年) 23,881t
 あきろまん (5,891t)
 ヒノヒカリ (4,774t)

※農産物検査ベース



野菜

産出額 182 億円 (全国 34 位) (2014 年)
 生産量 29,479 t (2014 年) (県重点品目の計)

わけぎ (2012 年)
 生産量 877t
全国 1 位



秋植ばれいしょ (2014 年)
 生産量 2,090t
全国 3 位

【生産量が多い野菜】: だいこん (2014 年) 12,200t
 トマト (8,760t)
 キャベツ (7,750t)
 【生産額が多い野菜】: トマト (2014 年) 25 億円
 ねぎ (25 億円)

その他

産出額 49 億円 (2014 年)



花き

産出額 24 億円 (全国 38 位) (2014 年)
 出荷量 切り花類 37,200 千本
 花壇用苗もの類 13,700 千鉢

【出荷量が多い花き】: きく (2014 年) 18,800 千本
 ハンジュー (4,970 千鉢)

果樹

産出額 142 億円 (全国 16 位) (2014 年)
 生産量 14,542 t (2013 年) (県重点品目の計)



(2014 年) レモン
 生産量 5,753t
全国 1 位



みかん
 27,600t
全国 10 位



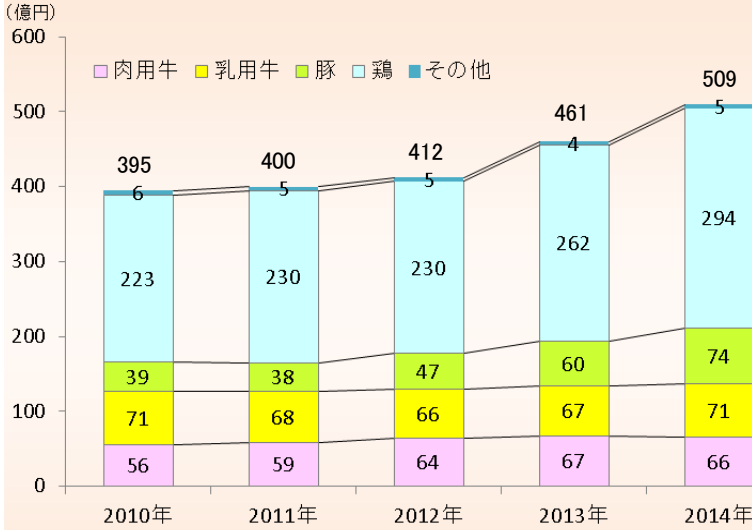
ネーブルオレンジ
 2,948t
全国 1 位

レモン・ネーブルオレンジは 2013 年数値

【生産量が多い果実】: みかん (2014 年) 27,600t
 ぶどう (3,460t)
 なし (2,400t)
 【生産額が多い果実】: みかん (2014 年) 47 億円
 ぶどう (25 億円)
 レモン (18 億円)

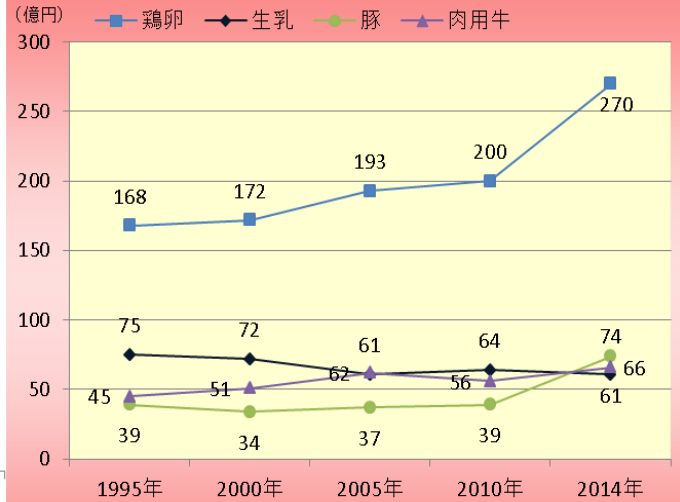
畜産業

1 農業産出額の推移（畜産部門）



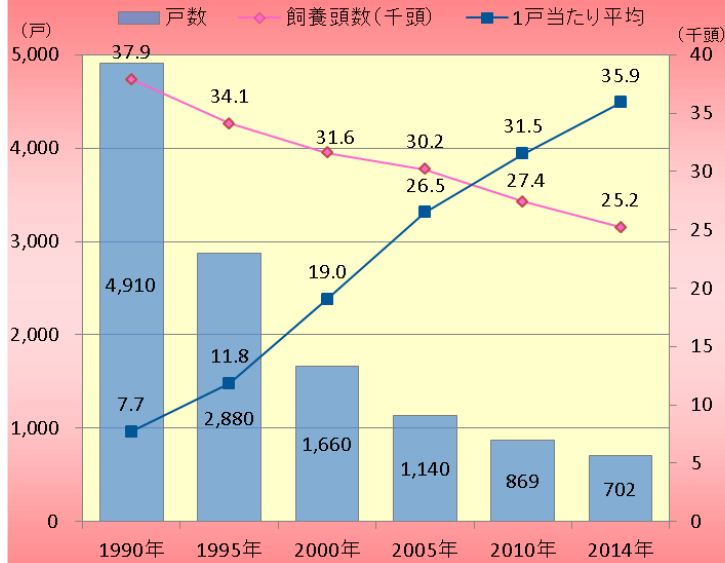
2014年は農業産出額上位10品目のうち、5品目が畜産の品目となっています。乳用牛は生乳、鶏は鶏卵が約90%を占めています。

2 畜産品目別の農業産出額の推移



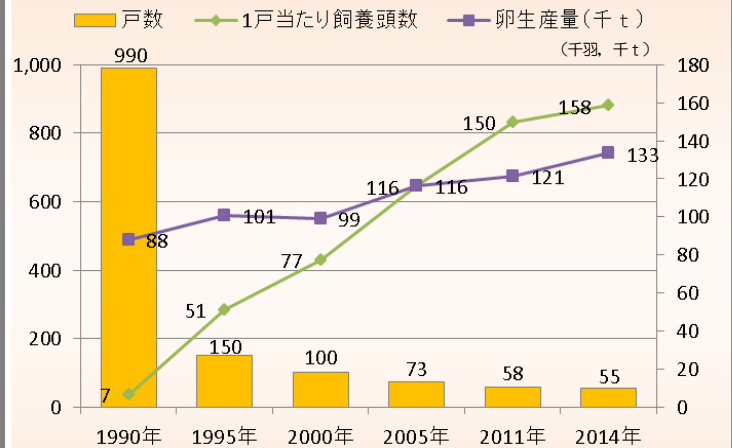
2014年の鶏卵の産出額は、茨城、千葉、鹿児島県に続き、全国第4位です。また、鶏卵及び豚の産出額が年々増加しています。

3 肉用牛飼養状況の推移



飼養戸数は減少していますが、1戸当たりの平均飼養頭数は増加しています。

4 採卵鶏飼養状況の推移



飼養戸数は減少していますが、1戸当たりの平均飼養頭数及び卵の生産量は増加しています。

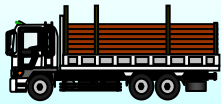
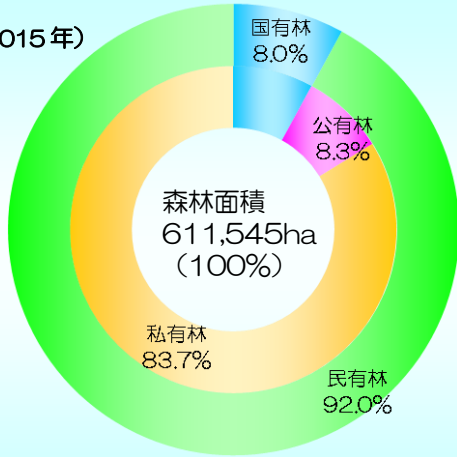
広島県農畜産物の生産状況

| 品目 | 調査時 | 作付面積(ha) | 生産量(t) | 産出額(億円) | |
|----|--------|----------|---------|-------------|-------------|
| 米 | 2015 | 24,700 | 125,200 | 203 (2014年) | |
| 麦類 | 2015 | 246 | 428 | - | |
| 大豆 | 2014 | 660 | 667 | - | |
| 野菜 | トマト | 2014 | 179 | 8,760 | 25 (2014年) |
| | ねぎ | // | 386 | 6,910 | 25 (2014年) |
| | ほうれんそう | // | 406 | 4,470 | 19 (2013年) |
| | アスパラガス | // | 129 | 724 | 7 (2013年) |
| 菜 | キャベツ | // | 350 | 7,750 | 5 (2013年) |
| | わけぎ | 2012 | 71 | 865 | - |
| | きく | 2014 | 78 | 18,800 | 7 (2013年) |
| 果 | レモン | 2013 | 198 | 5,753 | 9 (2013年) |
| | いちじく | // | 58 | 687 | - |
| | ぶどう | 2014 | 288 | 3,460 | 25 (2014年) |
| | はるか | 2013 | 41 | 852 | - |
| | いしじ | // | 259 | 3,810 | - |
| 畜産 | 鶏卵 | 2014 | ... | 133,337 | 270 (2014年) |
| | 生乳 | // | ... | 57,987 | 61 (2014年) |
| | 肉用牛 | // | ... | 9,007 | 66 (2014年) |
| | 豚肉 | // | ... | 4,859 | 74 (2014年) |
| 鶏肉 | // | ... | 12,420 | 18 (2014年) | |

森林・林業

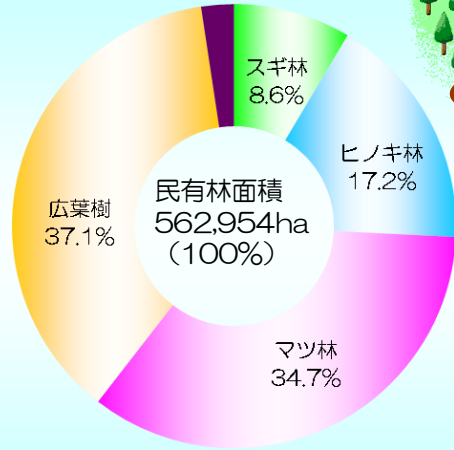
1 森林資源

所有形態別構成比（2015年）



本県の森林面積は県土面積の72%にあたります。

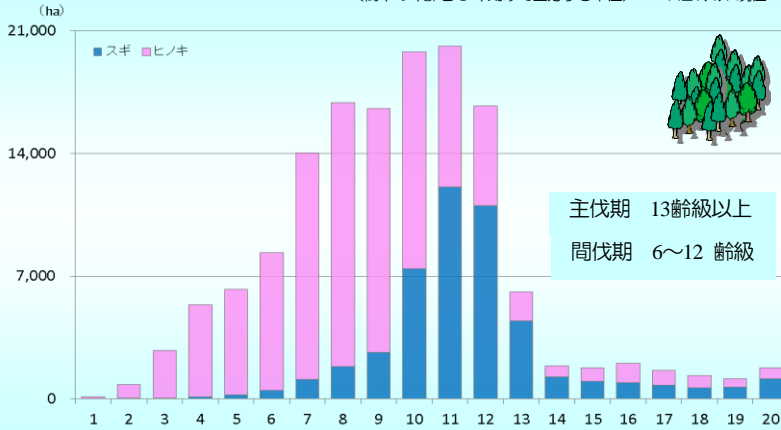
民有林の樹種別面積（2015年）



本県の民有林は、県北部地域を中心に、スギ・ヒノキ等の人工林が、県中南部地域を中心に天然マツ林(全国第1位)が広く分布しています。

2 人工林の齢級構成

(樹木の年齢を5年刻みで区分する単位) H27.4.1 現在



5 県民参加の森づくり



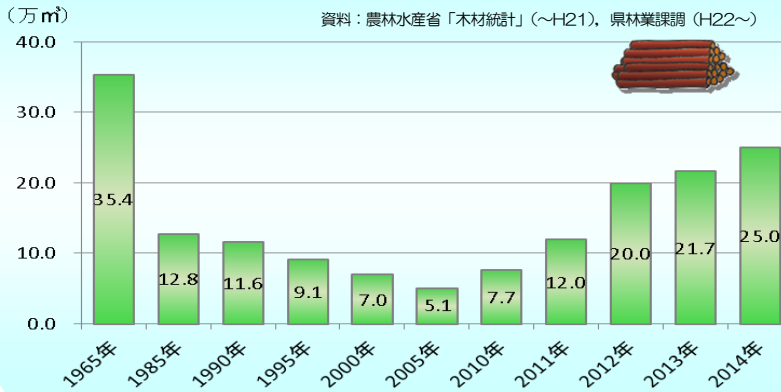
小学生等による植樹活動

住民団体・森林ボランティア団体・企業等が放置された里山林を手入れするなど、多様な主体の参加による森林保全活動が県内各地で行なわれています。

《ひろしまの森づくり事業（2007～2013）》
人工林の間伐 7,509ha
ボランティア活動支援 106,184人

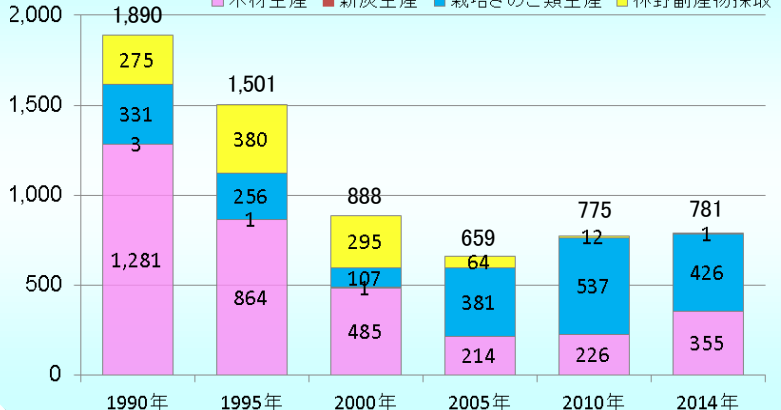
3 木材生産の状況

県内スギ・ヒノキ生産量の推移



4 林業産出額の推移

(千万円) 木材生産 薪炭生産 栽培きのこ類生産 林野副産物採取



6 森林の保全



治山施設

本県の山地災害危険地区は、24,520 地区であり、民有林の36%を保安林に指定し、治山事業の実施、水源林の造成など多様な森林整備を行いながら、森林の公益的機能の維持・保全に努めています。

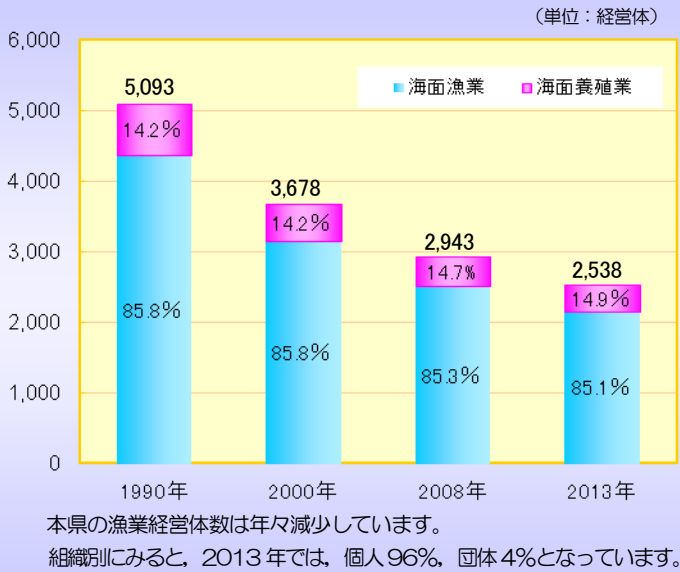


間伐された人工林

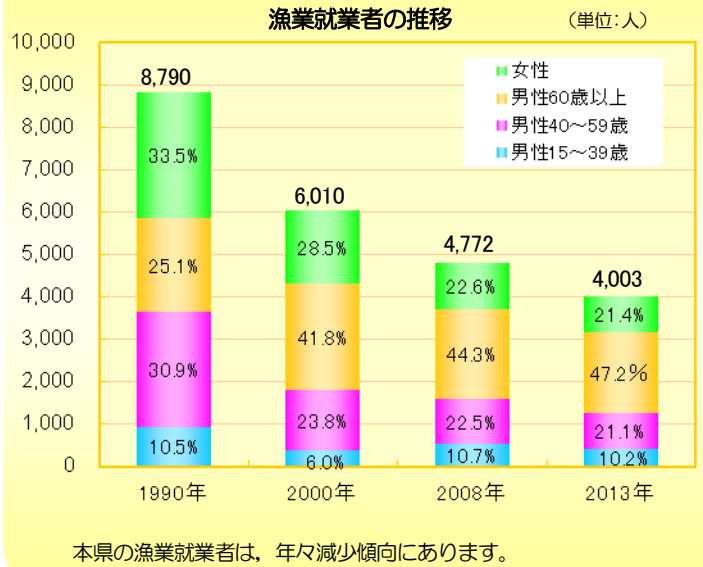
森林が放置され荒廃が進むと、「災害を防ぐ」「水を蓄える」など森林の有する公益的機能が損なわれてしまいます。
県では、ひろしまの森づくり県民税を財源とする「ひろしまの森づくり事業」で、荒廃した森林の再生に取り組んでいます。

水産業

1 漁業経営体

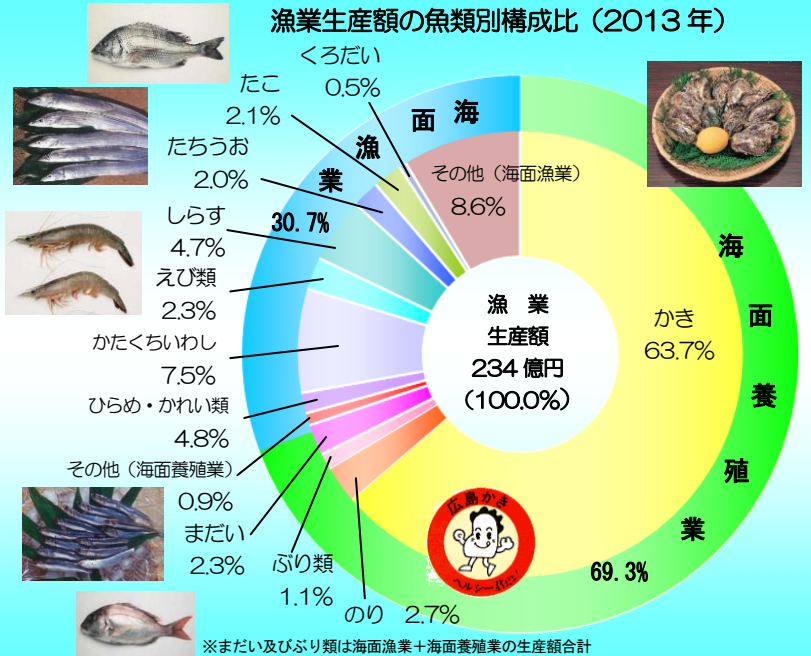
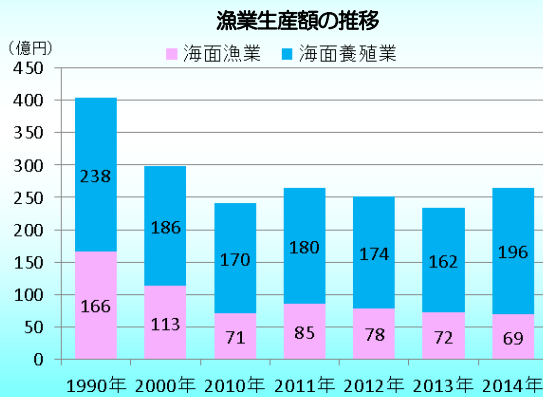


2 漁業従事者



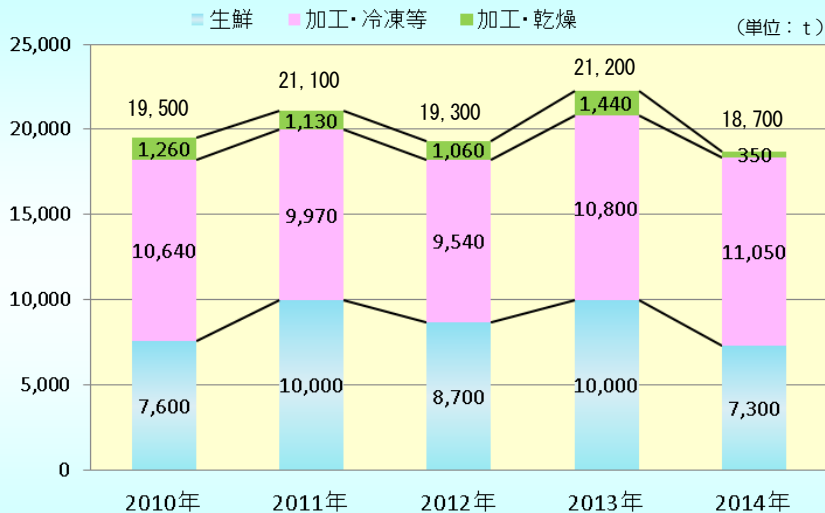
3 漁業生産

本県の漁業生産量は約60%をかきが占めています。
海面漁業では小型漁船による一本釣り、刺し網、底引き網、船びき網漁業がおこなわれています。



4 かきの生産量

広島かき生産・出荷量の推移



2014年漁期の総生産量は18,700tで(生鮮向け7,300t 加工向け11,400t) 全国1位です。全国シェアの5割以上を占め、品質のよい特色のある広島かきの提供に努めます。

5 栽培漁業の推進

かき小町
夏場に産卵しないため、身入りのよい大粒のかきです。

オニオコゼ稚魚
地先定着型魚種を中心に、地域ごとに特色ある水産資源を増やすとともに、本県産水産物のブランド化を促進し、消費者に安定して新鮮な水産物を供給する体制作りを構築します。

2020広島県農林水産業チャレンジプラン アクションプログラム

広島県では、「2020 広島県農林水産業チャレンジプラン」を平成 22 年 12 月に策定しており、「産業として自立できる農林水産業の確立」を最も重要な目標としています。

国の米政策の見直しなど農林水産業を取り巻く環境変化への対応や、これまでの取組の検証を踏まえ、プランの目標をより着実に実現していくために、具体的な取組を進めるアクションプログラムを策定しました。

■ アクションプログラムの期間：3年間／平成 27（2015）～29（2017）年度

■ プログラムの役割

「担い手が将来の生活設計を描ける経営の確立」を目指し、次のポイントにより重点的に取り組みます。

- ☆ マーケットの動向を基本として、ニーズのあるものを生産する。
- ☆ マーケット⇒流通⇒生産⇒資源の一連のサイクルで生産物の流れを見ることを基本とする。
- ☆ 生活設計を描ける経営体モデルの確立をめざす。

■ 目標と3年間の集中取組

販売戦略に基づく流通改善・生産体制の構築

農業

農業生産額目標 1,200億円 (H32)

3年間の集中取組

- 県産農産物のシェア拡大
- 担い手への農地集積の促進と次世代につなぐ農地の維持・管理
- 地域をけん引する経営力の高い担い手の育成

H28年度追加項目

- ☆ 大規模農業団地の推進
- ☆ キャベツ16億円産地
- ☆ アスパラガス10億円産地
- ☆ レモン22億円産地
- ☆ 競争力のある米づくり
- ☆ ほうれんそう22億円産地
- ☆ トマト34億円産地
- ☆ ねぎ等45億円産地
- ☆ 農地集積22,000haの進め方
- ☆ 次代の人材育成の進め方

水産業

漁業生産額目標 42億円 (H32)
かき生産額目標 170億円 (H32)

3年間の集中取組

- 特色ある瀬戸内地魚のブランド化と高収益漁業の確立
- 担い手育成と経営力の強化
- かきの生産体制の構造改革

☆ 瀬戸内海水産資源の増大と次世代の担い手育成
☆ かき生産体制の近代化

担い手に占める生産額目標

| 年度 | 生産額 (億円) | 割合 (%) |
|----------|----------|--------|
| H22 (実績) | 695 | 68.2% |
| H26 (実績) | 1,086 | |
| H32 (目標) | 1,200 | 83.3% |

畜産業

畜産生産額目標 466億円 (H32)

3年間の集中取組

- 和牛産地の再構築と市場競争力の強化
- 酪農・養豚・養鶏における経営力と販売力の強化

☆ 広島県産和牛の生産拡大と畜産物の販売力強化

林業

生産目標 40万m³/年 (H32)

3年間の集中取組

- 県産材の需要拡大
- 効率的な流通・加工体制の構築
- 安定的な木材生産体制の構築
- 資源循環利用による持続的な林業経営の確立

☆ 競争力のある県産材の供給体制の構築

県産材(スギ・ヒノキ)生産量

| 年度 | 生産量 (万m ³) |
|----------|------------------------|
| H25 (実績) | 21.7 |
| H26 (実績) | 25.0 |
| H29 (目標) | 33.8 |
| H32 (目標) | 40.0 |

生産者と消費者・多様な業者との連携

食の安全・安心

地域資源の維持

農山漁村地域の暮らしの安全・安心の確保

産業として自立できる農林水産業の確立

担い手が将来の生活設計を描ける経営の確立

アクションプログラムに掲げる主な目標値と達成状況

| 項目 | 平成25年実績 〔アクションプログラム〕 基準値 | 平成26年実績 | 目標 | |
|-----|--------------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|
| | | | 平成29年 | 平成32年 |
| 農業 | 農業産出額に占める担い手の割合 | 68.2% | — | 83.3% |
| | 担い手への農地集積面積 | 10,909ha | 11,882ha | 22,000ha |
| | キャベツ栽培面積 | 130ha | 133ha | 405ha |
| | アスパラガス栽培面積 | 94ha | 81ha | 106ha |
| | レモン栽培面積 | 194ha | 200ha | 300ha |
| | 非主食用米の生産面積 | 352ha | 688ha | 2,490ha |
| 畜産業 | 広島県産和牛出荷頭数 | 4019頭 | 4,000頭 | 6,000頭 |
| 林業 | 木材安定供給協定による取引量 | 59千m ³ /年 | 59千m ³ /年 | 120千m ³ /年 |
| | 県産材（スギ・ヒノキ）生産量 | 21.7万m ³ /年 | 25.0万m ³ /年 | 40万m ³ /年 |
| | 年間5千m ² 以上生産の林業事業体 | 6社 | 7社 | 16社 |
| | 森林経営計画作成面積 | 7,069ha | 17,370ha | 60,000ha |
| 水産業 | 新規就業者数 | 46人/年 | 29人/年 | 65人/年 |
| | 担い手グループ数 | 19グループ | 21グループ | 33グループ |
| | 重点放流魚種（累計） | — | — | 3種類 |
| | 漁業生産額（海面漁業）※イワシ類、アサリ除く | 272億円 | — | 285億円 |
| | かき生産金額 | 155億円（H24） | — | 170億円 |

多面的な役割を持つ農林水産業・農山漁村

本県における農業・農村の公益的機能の評価額

| | | |
|-----------|-------|--|
| 洪水防止 | 751 | 田畑が降雨を一時貯留し、周辺に徐々に流したり、雨水の急激な流出を防ぐことで、洪水を防止・軽減する役割 |
| 水資源かん養 | 286 | 降雨や、灌漑によって導かれた河川水等を田畑が地下に浸透させ、蓄える役割 |
| 土壌侵食防止 | 45 | 農地で作物を栽培することにより、土壌侵食を抑制する役割 |
| 土砂崩壊防止 | 11 | 耕作されている水田が地下水を安定的に維持し、土砂崩壊を防止する役割 |
| 有機性廃棄物処理 | 1.8 | 農耕地が、有機性廃棄物を堆肥として還元し、廃棄物の最終処理経費を軽減する役割 |
| 気候緩和 | 3.4 | 水田が、水分の蒸発により周囲の気温を低下させ、特に夏期においては、周辺地域の気候を緩和させる役割 |
| 保健休養・やすらぎ | 404 | 田畑は農村の景観の一部を構成し、その景観や自然が人に潤いややすらぎを与える役割。 |
| 合計 | 1,502 | |



水源かん養とともにやすらぎをもたらす棚田の風景



豊かな水を育む森林

本県における森林の公益的機能の評価額

(億円/年)

| | | |
|---------|--------|--|
| 水源かん養機能 | 5,300 | 森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水、濁水を防ぎ、さらにその過程で水質を浄化する役割 |
| 土砂流出防止 | 9,527 | 森林の下層植生や落葉枝が地表の侵食を抑制する役割 |
| 土砂崩壊防止 | 2,076 | 森林が根系を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ役割 |
| 保健休養機能 | 516 | 森林が人にやすらぎを与え、余暇を過ごす場として果たしている役割 |
| 二酸化炭素吸収 | 312 | 森林がその成長の過程で二酸化炭素を吸収している役割 |
| 化石燃料代替 | 49 | 木造住宅の建築による化石燃料代替効果 |
| 合計 | 17,780 | |

資料：広島県の評価額…農林水産部（平成14年）による推計値

（注）機能によって評価手法が異なっていること、また、評価されている機能が多面的機能全体のうち一部機能にすぎないこと等から、合計額は参考とします。

有機性廃棄物を分解する

都市から出る生ゴミ（有機性廃棄物）を土の中のバクテリアなど微生物が分解し、再び農作物が養分として吸収できる形にかえます。

心身をリフレッシュさせる

緑豊かな自然に触れると安らぎ、心身がいやされるため、多くの人が森林・農村地域を訪れています。

土砂崩れ・土の流出を防ぐ

森林は大地にしっかり根を張り、土砂崩れを防ぎます。また傾斜地に切り開かれた田畑は、雨水などの流れを緩めて土砂の流出や侵食を抑えます。

気候を緩和する

水田は、水分の蒸発や、作物の光合成により、周辺地域の気温を下げます。

地下水などを蓄える

森林や田畑からは、絶えずゆっくりと水が地下へしみ込み、これが地下水となり蓄えられ川に流れ込んで生活用水などに使われています。

洪水を防ぐ

森林や田畑は雨が降った時、一時的に水をためておくことができます。大雨時もためた雨水をゆっくり下流に流すことで、川の氾濫を防ぎ、下流域の暮らしを守ります。

地球環境を守る

森林は温暖化の原因である二酸化炭素を吸収し、化石燃料の消費を抑制します。

平成28年4月発行
広島県農林水産局
Tel 082 (513) 3522